

令和元年10月30日

## 1kwアマチュア局への道

JH8CBH 佐々木 朗

### 1 はじめに

私の開局は昭和 55 年(1975)年である。その年の4月に札幌の当時の電波専門学校で電話級アマチュア無線技士(当時)の国家試験を受けた。その時、校門の前で、おそらくハムショップであろう、パンフレットを配っていた。今でも覚えているが、3万円台、5万円台、10万円台、そして最終のページには、タワー、HF の八木があがっているページがあった。15歳の夢は、「いつかタワーを建てて、HF で日本全国、世界と交信を楽しみたい。」であった。開局は TR-2200G。2mのハンディ機である。ハンディ機と言っても、弁当箱を一回り大きくしたくらい大きさである。これに1/4λのグランドプレー



ンであった。それでも、函館市内は、楽にカバーできた。そしてたまには7エリアも交信できた。JA8の後半からJH8にかけては養成講習会が活発に行われていたため、たくさんの局がいた。当時は水晶のチャンネルで、お小遣いを貯めては水晶発振子を買ひ、チャンネル数を増

やしていった。サブチャンネルがなくて、交信できないこともあった。周囲は、同級生も多かったが、たくさんの大人の方たちにかわいがってもらった。私のアマチュア魂はそんな諸先輩の暖かさが原点となる。



その後高校生になって、TS-520X を親に買ってもらい、ワイヤーアンテナで、7メガと21メガに出ることができるようになった。高校も東高校。もちろん物理部アマチュア無線班。すぐに電信級(当時)を取り、電信でのQSOもできるようになった。物理部の目標は毎年夏休みに開催されるフィールドデーコンテストでの入賞。日常の電信、電話もすべてこのコンテストへ向けての訓練であった。パイルアップを落ち着いて淡々とさばけるようになったのは、まさに高校時代の自己訓練であった。その後、教育大学でもアマチュア無線クラブを創設した。

日高管内のことは別述したが、その8年間の間で、私はミニ講習会を開いたり、電信を教えたり、コンテストのための野外運動を企画したり、機関誌を作ったりと、

今度は教えていただく立場も大事にしながら、アマチュア無線を発展させる、みんなの楽しみをより広げていくという使命があることを学んだと思う。

日高から渡島に移り、恵山でもアマチュア無線クラブを創立した。(残念ながら私がいなくなった後、自然消滅してしまった)。恵山の8年の間で、函館に家を建てることになり、候補地を探していた。予算は、もちろん最優先事項ではあるが、「ロケーションを良いところ。」も重要な事項であった。現在の自宅は、裏に使い放題(?)の土地があり、住宅密集地でもなく、そして、津軽海峡を見下ろす高台になっている。子どもたちにとっては、自転車で遠くまで通わせて申し訳なくも思っているが、夢をまた一步実現できたのである。それと同時に、自宅では、思い切り楽しみたいということで、電話、電信級から脱出し、第二級、第一級とライセンスを取得した。勤務が終わってから毎晩勉強した。丸暗記はしなかった。どうしてその答えになるかをしっかりと勉強した。今はだいぶ忘れてしまったがその基礎は役立っていることが多い。

その後は、結構とんとん拍子に進む。家とほぼ同時にタワーを建て、HF の八木、そして2mのスタックを上げた。パワーも100ワットまで上げた。私の開局当時は50ワットを超える無線局は落成検査が必要であった。私の上げたナガラ TA-351 は、7メガがダイポールだったが、そこそこ飛んだ。そして丈夫なナガラは、まさにその品質を証明してくれた。しかし100ワットにダイポールは、標準に近く、パイルアップになかなか勝てなかったり、

結局取れなかったりした苦い経験も多い。200ワットまで落成検査がなかったのもハイパワー化の一つの要因だと思う。そんな頃、ローカルの OM から TL922 を安価で譲ってもらえる話があり、準備に入った。TL-922 にはワークバンドはなかったので、1.9、3.5、7、14、21、28メガの免許を目指した。1.9と3.5はアンテナがなかったので、裏の敷地を利用してフルサイズのダブルダイポールを張った。平成9年(1997年)に無事落成検査に合格することができた。今は、テレビはデジタルなので、TVI は発生しにくいのであるが、当時はアナログであり、かなり気を遣った検査であった。



やはり、100ワットと500ワットの差は歴然であった。200ワット仕様の無線機が発売されたことから、200ワット局もかなり増えたが、500ワットは一味違うというのが実感である。この頃が一番アクティブだったように思う。1.9メガや3.5メガの面白さもなんとなくわかってきた。

平成13年に一アマの最大空中線電力が1kwになったが、とてつもない電力に私の野望はまだなかった。平成29年に、20年使ったナガラアンテナを交換することにした。その頃CQ誌に載っていた工人舎から発売された新しいアンテナに目を奪われた。エレメントが伸び縮みし、7メガヘルツ以上のどのバンドでも、

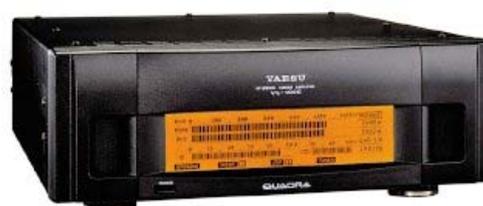
また、バンド内のどこでも、ピタッと整合が取れるというものである。「穴が開くほど」という表現があてはまるほど、私はその記事を読んだ。しかし、不安要素もあった。「壊れないだろうか。」「長持ちするのだろうか。」これは工人舎の技術を感じるしかない。今まで7メガはダイポールだったので、八木がほしいというものもあった。7メガの八木は見たことがある。モノバンドの2エレは相当に大きい。使っている方の飛びを見ると、他とずば抜けて強い。そんな憧れがあった。いろいろ根拠のない計算をした。「あと20年元気に無線をやるとすると。」と考える。ここは私のグレードアップする最後のステージとなると考えた。結果として、敷地ぎりぎりで行ける7メガの3エレタイプを選んだ。月給の2か月分である。さらに、アンテナが重たいことから、2mのスタックとGPはコン柱に移し、さらにタワーを1段かさ上げして、18メートルにした。相当の出費であったが、悔いはなかった。



7メガ3エレに500ワットは、痛快である。パイルアップも、いくらかの例外を除いて、「お先、失礼いたします。」で、「いただきます。」である。コンディションが下がってきている中でも「CBHさんの信号だけが聞こえています。」と言われたことも、何回かある。CWはパイルアップに参加し

て、取れなかったという記憶は一度もない。

もう、十分すぎる位十分なのではあるが、気になることが2つあった。一つは新スプリアス基準を TL922ではクリアできなさそうだということ。もう一つは、10、18、24メガもオンエアできるようになったが、免許状は100ワットまでだし、アンプも対応していないということである。ワークバンドをハイパワー化し、新スプリアス基準もクリアしたいと思うようになった。アンプを探さようになった。エキサイターを TS-870 から FT2000 に変更することを前提に考えると、八重洲のアンプでいきたい。



すると選択肢は自動的に一つになる VL-1000 である。しかし、アンテナ周りで相当の費用がかかった。家族の SWR を上げないために、出来るだけ安価で入手したい。オークションサイトや販売サイトなどを毎日のようにのぞいた。やっと納得のできる価格で中古品であったが VL1000 を入手することができた。ここから、1kwに向けての準備が始まった。

## 2 無線機周り地域周辺の事前準備

### (1) インターフェア対策

テレビの方は、デジタルになり、また、送信所がある函館山を直視できることから、テレビ放送の電界強度は十分であり、あまり心配はしなかった。その一方、こわかったのは、テレホンI、そしてドアホンIである。ドアホンIについては、500ワットの時に、2軒離れた家から、家でピンポンが鳴るという情報をもらい、コイルを入れて対策をすることができた。その家も運よくアマチュア無線をやっておられ、無線に対する理解があって不幸中の幸いであったという事例である。

今回もアウトプット側としては、ローパスフィルタとコモンモードフィルタを入れた。だが、件のIは基本波である。「お守り」と考えた方がいいのかもしれない。また、VL-1000のスプリアスは専門の方が驚くほど少ないという情報も持っていたのも心強かった。



あとは、トロイダルコア(パッチインコア)を大小相当数購入し、電源回りやケーブル周りに挿入した。コモンモード電流が外に出ていかないように抑制しようとした。

結構、私を悩ませたのがパソコンI。3.5メガで送信すると、勝手に新しいウィンドウが開く、ハムログに勝手に文字が書き込まれる、さらに、スリープ状態になってしまう。これは外付けキーボードを使った時のみに出現する症状である。コアをいくつも入れたが止まらなかった。「3.5

に出る時は、外付けキーボードを外して、ノートパソコンのキーボードを使えばいい。」と思ったが、「やっぱり何とか止めたい。」という意識で、対策方法を思考する。キーボードの下にアルミ箔を敷いてみた。幾分よくなったようだ。スリープ状態になることはなくなった。さらにアルミ箔をパソコンのシャーシに落としてみた。するとドンピシャと止まった。

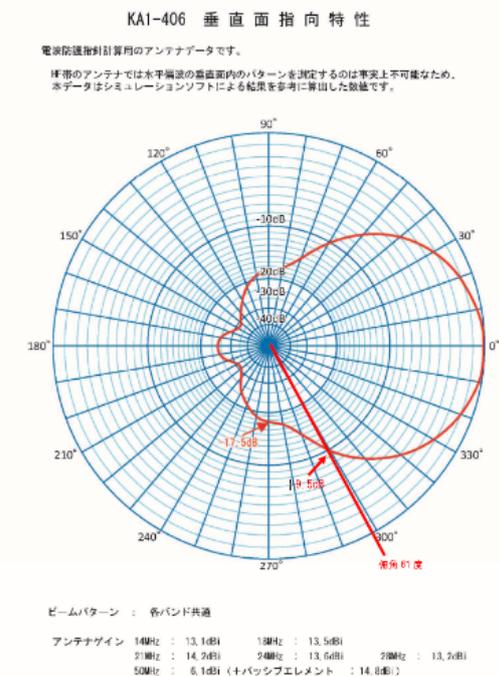


基本波の対策は、Iが起きている側で対策するしかない。私は、近隣の裏の草刈りをしたり、余計な木を切ったりなど、近所との関係が良い状態であるようになり神経を使った。顔を合わせる度に、「何か電波で障害が起こっているようなことはないですか。」と声をかけた。

## (2) 申請書の提出

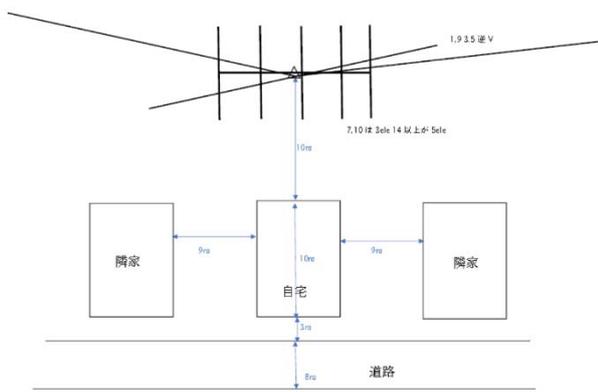
申請に当たって、先ず頭を悩ませることが電波防護指針のクリアである。50ワットを超える無線局においては、電波防護指針をクリアできているかの照会書が来る。電波を出すことによって人体に影響がないことを証明しなければならないのである。ダイポールなどの利得が低いアンテナは、計算式に当てはめていくと比較的に容易に基準の数値をクリアできる。ところが、利得のあるアンテナを使うと事情は違ってくる。利得が高いということ

電波防護指針に基づく電界強度確認表 (アマチュア用)												作成年月日: 令和元年8月21日
												氏名: 佐々木 朗
												コールサイン: JH8CBH
周波数帯	1.9MHz帯	3.5MHz帯	3.8MHz帯	7MHz帯	10MHz帯	14MHz帯	18MHz帯	21MHz帯	24MHz帯	28MHz帯	50MHz帯	145MHz帯
定格電力P[W]	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
給電線損失[dB]				0.84	0.60	0.72	0.80	0.84	0.82	0.88	1.02	
空中線利得G[dB]	0.00	0.00	0.00	9.30	10.10	13.10	13.50	14.20	13.60	13.20	8.10	
平均電力率	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	
俯角減衰量[dB]				3.2	3.2	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	8.8	
空中線高[m]	14.0	14.0	14.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	
空中線地上距離[m]	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	
空中線直線距離R[m]	17.20	17.20	17.20	18.87	18.87	18.87	18.87	18.87	18.87	18.87	18.87	
空中線の形式	D.P.	D.P.	D.P.	八木型								
俯角[°]	54.46	54.5	54.5	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0	58.0	
最小安全距離[m]	0.88	1.08	1.13	3.88	5.17	6.44	8.48	10.78	11.61	13.12	5.61	
強い反射物の有無	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
算出電界強度 E[V/m]	14.24	14.24	14.24	24.34	26.57	19.60	20.34	21.85	20.29	19.29	8.17	
基準値 [V/m]	275.00	230.49	216.58	116.06	81.18	57.42	45.35	38.41	32.97	27.74	27.50	
判定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	



使う。俯角減衰量は、アンテナの高さにおいて、指向性のある方向で受ける電磁波に対し、地上(人間の伸長を2メートル)と考え、垂直方向の角度によって、どれだけ人間が受ける電磁波の比によって計算する。工人舎から出された垂直方向の俯角減衰量の表に、水平面での隣家の端での距離(つまりタワーの根本から隣家まで端までの距離)と垂直面での距離(タワー18メートルから人間の伸長2メートルを減じた距離)から、隣地の端までの角度を求め、それを俯角減衰量の図に当てはめて、減衰量を求めるのである。文字で書くとややこしいが、整理しながら計算していくと、理解できた。同日減衰

は、ダイポールで100ワットのものが、利得が高いことで200ワット分にも300ワット分にもなるということである。そのような場合、指針の数値をクリアすることはできない。私も28メガヘルツにおいて、クリアできないと、通信局から指摘を受け、計算しなおした。それには「俯角減衰量」と「同軸減衰量」を



量は、HF帯でもあり、気持ち程度の減衰であったが、一応掲載した。この計算は関東総合通信局にアマチュア無線用に用意されており、必要なデータを入れると、電波防護指針をクリアしているかがすぐに判定できる。

これらに、リグとエキサイターの送信機系統図、近隣の家との配置とアンテナまでの距離などを入れて申請した。



また、電力を測定するために、ダミロードがあった方がいいということだったので、発注した。輸出品となる

ため、だいぶ時間がかかった。前もって発注しておいてよかったと思う。かなりの時間がかかった。当日の検査でも電力はこのダミロードを使って行った。ダミロードは、大きな空の缶に抵抗が入っている形で届く。ユーザーはその缶にサラダオイルを入れるのである。3.6Lほど入った。1キロワットを入れると、数分で上の方が熱くなる。電波のエネルギーを手で感じる事ができた。

### (3)無線局指定変更・変更許可通知書が来る

書類審査が下りると、いよいよ本格的な試験電波を出しての準備が始まる。ここで決断しなければならないことが、落成検査を総合通信局に行ってもらい直接

北海道第19-0004155号

無線局指定変更・変更許可通知書

免許人名  
佐々木 剛

受付年月日  
令和 8.15

受付番号  
19-0004155

無線局の種類  
アマチュア局

免許の番号  
北A第14798号

局数  
1

の申請については、

下記の欄に記載のとおり指定を変更し、並びに変更を許可する。

周波数帯	IRSCB
電波の形式、周波数及び空中電力	
3EA	2910 kHz 1 kW
3EA	3537.5 kHz 1 kW
3ED	3798 kHz 1 kW
	4050 kHz 200 W
3EA	7100 kHz 1 kW
2HC	10125 kHz 1 kW
2HA	14175 kHz 1 kW
3EA	18118 kHz 1 kW
3EA	21225 kHz 1 kW
3EA	24940 kHz 1 kW
3VA	28.85 MHz 1 kW
3VA	32 MHz 1 kW
4VF	14.5 MHz 10 W
4VF	42.5 MHz 10 W

備考  
別紙のとおり

令和 8年 8月 28日

北海道総合通信局長

免許状を受け取るか、登録検査等事業者に点検をしてもらい、その結果を総合通信局に報告し、それから免許状をもらうかである。登録検査等事業者制度による点検は、平成23年に始まった制度で、従前の検査時にはなかった制度である。私は、WEBでかなりの落成検査の報告を読んだ。また、登録指定業者のホームページも見た。全体的印象として、登録検査等事業者制度を使った方が、検査の敷居は低そうである。「すぐにでも日程が合えばできる。」「土、日でも対応できる。」「親切に教えてくれる。」ということである。総合通信局からの文書の中にも、業者名がいくつか載っていたが、函館にはない。そうすると交通費もかかりこちら持ち、点検料も通信局の検査よりも高い。それに加えて、一度であるが、総合通信局(当時は電波監理局)の検査を受けている。そうすると、答えは、あまり悩むこと

もなく出た。総合通信局の直接の検査と決めた。

## アマチュア無線に関わる 電波障害調査ご協力のお願い

初秋の候、いかがお過ごしでしょうか。既にご承知かと思いますが、私はアマチュア無線を楽しんでおります。この度、出力を増強するための検査を受けることになりました。

つきましては、下記の通り、試験電波を発射いたしますので、ご近隣の皆様におかれましては、テレビやラジオ等への電波障害の有無についての調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

令和元年9月21日

### アマチュア無線とは

世界に一つのコールサイン(呼称)JH8CBH)を持ち、制限内はもちろん、全く、安全、電波と交信を楽しむことができます。また、電に無線機をつけて、次年度の遠征内や、互いの仲間との遠征情報などの交換もできます。自分の仕事以外に同じ趣味の多くの仲間と交わることができる。また災害時の非常通信手段としても、役立っています。

#### 試験電波の発射及び調査依頼内容

9月21日(土) 19:00~20:00  
9月20日(日) 10:00~11:00

断続的に周波数を変えながら、電波を出しますので、テレビやラジオに障害が出ているか、確認下さい。障害があった場合は、何分ごろにどのチャンネルに障害があったか等、簡単にメモをしていただければ幸いです。

#### 状況の集約

9月20日(日)13:00~14:00頃 各ご家庭を再度訪問させていただきます。電波障害状況の有無を聞き取りさせていただきます。

方が「留守」であった場合には、当方で責任を持って対策をとらせていただきます。ご迷惑をかけるまいといたします。

またこの時期に不在の場合は、また改めてお問い合わせさせていただきます。



お手数をおかけしますが、ご協力よろしくお願いいたします。

〒900-0001 富山県富山 2-10-1 番地13  
佐々木 朗 (あきら)  
電話 0138-860-7039  
e-mail: asasuki@edu-hakodate.jp  
HP: <http://edu-hakodate.jp/sasaki/>

それが決まると、いよいよ近隣の家の調査開始となる。我が家は、一応住宅街ではあるが、住宅裏側の土地は使われておらず住宅もない。したがって、横並びの住宅と向かい側の住宅5軒を調査することにした。隣家の一つと、向かい側の家は空き家であったことは、少しながら安心材料ではあった。調査は9月14日(土)の夜及び16日(月・祝)の日中の2回に分けて行った。土曜日の日中に、一軒500円程度の手土産を携えて、チラシを持って、一軒一軒回って、その場で、異常はないか確認し、更に調査の協力をお願いした。その時不在だった方にも夕刻にお会いすることができ、調査のお願いは全てすることができた。

試験電波は、1.9 から 50 メガまでの 10 バンドで行った。調査時間 1 時間で 10

バンドの試験電波を出すためには、1バンド6分ということになる。各バンドで、「VV DE JH8CBH」を繰り返した。14メ

時間	周波数帯
00~06	1.9MHz 帯 (CW)
06~12	3.5MHz 帯 (CW、SSB)
12~18	7MHz 帯 (CW、SSB)
18~24	10MHz 帯 (CW)
24~30	14MHz 帯 (CW、SSB)
30~36	18MHz 帯 (CW、SSB)
36~42	21MHz 帯 (CW、SSB)
42~48	24MHz 帯 (CW、SSB)
48~54	28MHz 帯 (CW、SSB)
54~00	50MHz 帯 (CW、SSB)

ガでは、試験電波にも関わらず、コールしてくるDXの局もあり、せっかくなので、レポート交換のみ送るなどのハプニングもあった。「1KWはこわい。」という感覚は、今でもある。しかし、ここでパワーをケチって、免許後に、「実はインターフェアが出ていた」では、済まないの、全バンドフルパワーで電波を出した。この調査は、前述の通り、夜間帯と日中帯の2回行った。

月曜日、いよいよ調査結果の集約である。不在のお宅もあったが、何回か回って全ての方とお会いすることができた。いずれもTVIをはじめインターフェアはなかったということで、住所、氏名、そして押印をしていただき、近隣の調査を終えた。

落成検査に関わる諸準備の中で、これが一番「重い」ものであり、それがクリアできたことで、相当に私の気持ちは「軽く」なった。実質、1kwを出して運用すること

はそんなになんと思うし、普段から1kwを出しっぱなしにするつもりもない。普段は一応「出力500ワット」とは言っているが、実質350ワットから400ワットぐらいの運用である。そうは言え、つまみを少し回

5 TVI BCI 等の状況

障害の有無	氏名	印	住所
無し	佐々木 朗	○	函館市銭亀町 210-1
無し	佐々木 朗	○	函館市銭亀町 210-1
無し	佐々木 朗	○	函館市銭亀町 210-1
無し	佐々木 朗	○	函館市銭亀町 210-1
無し	佐々木 朗	○	函館市銭亀町 210-1

せば、1kwまで空中線電力を上げて運用することができることから、取れそうで取れない局があれば、つまみを上げることも十分に考えられる。今後においても、インターフェアには、十分気を配っていききたい。また、どでかいアンテナは、もしかして近隣にとっては脅威な存在に見えるかもしれない。安全第一とし、近所付き

測定した書類を提出することが求められる。終段管は48ボルトであり、これに流れる電流がりにアンペアに示される。電力は電圧×電流×0.5(能率)で計算する。電流が足りない場合は、ボタンでドレイン電流を増加させ、1kwに近いところに設定した。この作業は、ダミロードを使って行った。ダミロードはかなり熱くなった。と言っても上の方だけである。ダミロードの中のサラダ油を循環する装置があればいいのにとその時思った。

それと、以前は、3.5メガのみの検査であったが、もしかして、3.8メガも検査を行うかもしれないということをいくつかのWEBから情報入手をしていた。さて、どうするか、「3.8メガは今のところほとんど出ることがない。本格的にやるまでもな



い。」という判断で、3.5メガのワイヤーを折り返して、3.5メガに同調させることを考えた。計算してみると、1メートル52センチほど、折り返すといい。ただ、折り返すことで、本当に電氣的長さがぴったりと短くなるのか、疑問もあった。一応私のSWR計で測ったところ、まずまずのSWRに収まっていた。もう少し検討を加えるため、いつもお世話になっているローカル局にアンテナアナライザーをお借りして、ちょうど、3.8メガになるように長さを調整した。最初に調整した長さより20センチ

令和元年9月24日

アマチュア局事前点検表

- 氏名及び呼出符号 佐々木 朗 JH8CBH
- 住所 〒043-1351 檜山郡厚沢部町館町187番地1
- 自宅及び勤務先の電話番号  
 自宅 (0138)-86-7039  
 勤務先 (0139)-66-2230 勤務先名 厚沢部町立部小学校  
 携帯電話 090-8277-9744
- 送信機測定データ
 

電波形式	周波数	指定電力	終 段			測定電力			
			電圧	電流	入力電力	能率	計算値	電力計値	
A1A	1.9MHz帯	1KW	48V	41A	40W	0.5	984W	1KW	
	15.4MHz帯			36A	40W				864W
	7MHz帯			41A	50W				984W
	10MHz帯			37A	35W				888W
	14MHz帯			41A	45W				984W
	18MHz帯			38A	35W				912W
	21MHz帯			40A	45W				960W
	24MHz帯			40A	45W				960W
	28MHz帯			35A	40W				840W
	50MHz帯			33V	46A				45W

※ダミロードで対測、終段電流及び電力計値は、リニアアンプの表示による。

合いを大切にしていきたい。  
 無線局指定変更・変更許可通知書においては、リニアアンプの電圧と電流を

ほど短くしたところで、ぴったりとSWRが落ちた。その折返し場所にビニルテープを巻き、印をつけておいた。2階の部屋と、3.5メガのダイポールの端のポールまで何往復かして、多少くたびれたが、3.8メガの同調がうまく取れて、苦労も吹き飛んだというものである。

書類が整うと無線設備変更工事完了届と共に通信局に提出した。変更検査料は、収入印紙で支払い、11650円であった。検査後に思ったのであるが、これ以外に支払ったものはなし。北海道通信局の方2名が、JRに乗って函館まで来て、検査をして日帰り。一日仕事であるが、交通費などの負担はなしである。

落成検査の期日は、総合通信局との電話のやりとりで決まった。10月30日の午後。係官二名を派遣し、検査を行うということであった。

### 3 落成検査当日(10月30日)

その日は、若干の風はあったが、良い天気であった。1時間目と2時間目の授業を終えて年次休暇を取り、函館へ。最終点検をして、待ち合わせ場所へ向かった。13時30分、市電の終点での待ち合わせである。私は、「北海道総合通信局様」と書いたボードを持って、1時頃、湯川へ向かった。すると何分もしないうちに、「総合通信局の者です。」とボードを見て、声をかけてくれた。待ち合わせ時間より早く来てよかったと思った。お二人ともお若い方であった。以前の落成検査では、だいぶ年上の方に思われたが、20年という年月が経っており、自分の年齢が上がった成果かもしれない。

私の車で、2名を乗せて、自宅へ向かった。家に着いて最初に、名刺交換をして検査に入った。

最初は、ダミロードを終端にしての空中線電力の測定であった。アマチュア無線以外の現場では、N型コネクタが多いのだろうか。M型の変換プラグを探して、無事結線することができた。かなり高精度そうな測定器だった。私は事前にリニアアンプの電力表示で、エキサイターに60ワットから70ワットを入れて、1キロワットができるように調整していた。しかし、実際のその計器で測定すると850ワット前後であった。50メガがちょっと心配ではあったが、800ワット以上出ているので少し安心した。でもいずれのバンドでも申請している1キロワットは、出していない。全バンドの検査を終えて、検査官の方、「この位出ていれば偏差内ですから、大丈夫ですね。」

次は、隣家のTVIの調査である。事前に調査をしているとは言え、全バンドで、細かく全チャンネルを見ているという保証はない。その一方、テレビは今やデジタル。そして、函館山は見通し距離にあり、電界強度は強い。「大丈夫、大丈夫。」と自分に言い聞かせて調査開始。隣家の奥さんには、前週のうちに在宅を確認しており、当日もスムーズにテレビの検査を受け入れてくれた。検査官の一人が隣家に入り、テレビのチェック。もう一名が私のシャックにいて、電波の発射状況を伝える。以前の検査の時は、トランシーバーで連絡を取っていたが、今回は、ケータイ電話であった。1.9メガから始まった。「VVV DE JH8CBH(繰り返し)」

「ただ今、1.9メガヘルツ帯で電波出しています。」「異常なしですか、了解。次3.5メガヘルツ帯いきます。」という具合に勧められた。「異常なしです。」という返事が返ってくるごとに安心した。3.8メガはアンテナの調整があるため、最後にももらった。3.8メガヘルツ帯を除く全バンドで異常なしとなると、心は軽かった。落ち着いて、3.5メガのダイポールを3.8メガに合うように調整し、前述と同じように、試験電波を発射した。「異常なし。」である。

続いて、書類の確認である。書類と言っても、必要だったのは、無線従事者免許証と無線局指定変更・変更許可通知書ぐらいのものである。無線検査簿、法令集、時計などは、法令改正により備え付けの義務がなくなっている。

最後にアンテナ、家屋との配置関係の実態確認である。アンテナの説明をして、

令和元年10月30日

無線局検査結果通知書

佐々木 朗 殿

北海道総合通信局長 印

識別信号	JH8CBH	検査職員の所属	北海道総合通信局
免許等の番号	〇〇〇号	検査職員の官職氏名	総務技官 〇〇 総務事務官 〇〇
検査年月日	令和元年10月30日	合格又は不合格	不合格の理由
検査地	函館市	検査の判定	要更検査 合格 〔北通應第19-4155号 令元.8.28許可〕
指示事項	なし		

注 指示事項欄に記載がある場合は、電設法施行規則第39条第2項の規定により、当該指示に対応してとった措置の内容を速やかに報告してください。

アンテナから自宅まで、隣家までの距離について目測で確認した。これも合格である。

再びシャックに戻り、「以上で検査は終

無線局免許状

氏名又は名称	佐々木 朗	免許の番号	北A. 〇〇〇〇〇	識別信号	JH8CBH																																																																		
免許人の住所	北海道檜山郡厚沢部町館町187-1																																																																						
無線局の種類	アマチュア局	無線局の目的	アマチュア業務用	運用許容時間	常時																																																																		
免許の年月日	平 29. 1. 10	免許の有効期間	令 4. 1. 9 まで																																																																				
通信事項	アマチュア業務に関する事項		通信の相手方	アマチュア局																																																																			
移動範囲																																																																							
無線設備の設置場所/常置場所	北海道函館市銭亀町210-13																																																																						
電波の型式、周波数及び空中線電力	<table border="1"> <tr> <td>3MA</td> <td>1910 kHz</td> <td>1 kW</td> <td>3VA</td> <td>52 MHz</td> <td>1 kW</td> </tr> <tr> <td>3HA</td> <td>3537.5 kHz</td> <td>1 kW</td> <td>4VF</td> <td>145 MHz</td> <td>10 W</td> </tr> <tr> <td>3HD</td> <td>3798 kHz</td> <td>1 kW</td> <td>4VF</td> <td>435 MHz</td> <td>10 W</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4630 kHz</td> <td>200 W</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3HA</td> <td>7100 kHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2HC</td> <td>10125 kHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2HA</td> <td>14175 kHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3HA</td> <td>18118 kHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3HA</td> <td>21225 kHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3HA</td> <td>24940 kHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3VA</td> <td>28.85 MHz</td> <td>1 kW</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					3MA	1910 kHz	1 kW	3VA	52 MHz	1 kW	3HA	3537.5 kHz	1 kW	4VF	145 MHz	10 W	3HD	3798 kHz	1 kW	4VF	435 MHz	10 W		4630 kHz	200 W				3HA	7100 kHz	1 kW				2HC	10125 kHz	1 kW				2HA	14175 kHz	1 kW				3HA	18118 kHz	1 kW				3HA	21225 kHz	1 kW				3HA	24940 kHz	1 kW				3VA	28.85 MHz	1 kW			
3MA	1910 kHz	1 kW	3VA	52 MHz	1 kW																																																																		
3HA	3537.5 kHz	1 kW	4VF	145 MHz	10 W																																																																		
3HD	3798 kHz	1 kW	4VF	435 MHz	10 W																																																																		
	4630 kHz	200 W																																																																					
3HA	7100 kHz	1 kW																																																																					
2HC	10125 kHz	1 kW																																																																					
2HA	14175 kHz	1 kW																																																																					
3HA	18118 kHz	1 kW																																																																					
3HA	21225 kHz	1 kW																																																																					
3HA	24940 kHz	1 kW																																																																					
3VA	28.85 MHz	1 kW																																																																					
備考	52MHz帯で500Wを超える空中線電力の使用は、50MHzから51.5MHzまでの周波数を使用して外国のアマチュア局との通信を行うものであって、他の無線局の運用及び放送の受信に妨害を与えない場合に限る。																																																																						
	法律に別段の定めがある場合を除くほか、この無線局の無線設備を使用し、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。																																																																						
令和元年10月30日	北海道総合通信局長 印																																																																						

了しました。書類を作成しましたので、少々お待ちください。」二人の検査官は、打ち合わせしながら、検査結果に係る書類を作成した。

2, 3分で、「それでは、落成検査の結果をお知らせいたします。」二人の検査官と対面する形で、検査結果を受けた。「検査は『合格』です。指示事項はありません。」と話し、検査結果と1KWの免許状の交付を受けた。

湯川の電停まで、講習会の講師のことやラジオ教室などでおしゃべりをしながら、「アマチュア無線の発展のためにがんばってください。」と言われ、「今日は、札幌から来ていただき、ありがとうございました。」という言葉で、別れた。

二度目ということで、気持ちに多少の余裕があったことは否めないが、終始、和やかな落成検査であった。

#### 4 最後に

結果論になってしまうかもしれないが、近隣のインターフェアさえなければ、あとはほとんどが書類審査である。インターフェアについては、当局検査であろうと、登録検査等事業者であろうと、アウトであ

る。インターフェアがあった場合は、登録検査など指定業者の方が、その対策への有効なアドバイスを受けることができたのかもしれない。当局検査は敷居が高いということも感じない。きちんと筋が通っていれば、当局検査で十分だというのが私の思う結論である。

1KWの出力を出すということに対しては、いろいろな意見があると思う。しかし、アマチュア無線に人生を賭けている者としては、いつかは目指したいことでもあった。

今、45年前のあのパンフレットの最終ページに載っていた無線設備を備えたことになる。子どもの頃の夢をかなえたことになる。全くの幸せ者である。

「これからの夢は？」と聞かれたならば、アマチュア無線の益々の発展のため、講習会講師としての務めを全うしていくこと、そして、新たにアマチュア無線を始めようとする人たち、一度遠ざかった人たちの発掘である。私が子どもの頃、周囲の大人の人に、アマチュア無線の魂を教えてもらったように、私も、同世代、そして次代を担う若者たちに、アマチュア無線の魂を語っていきたいという思いである。